

民間検査機関だより

No. 31

平成14年12月25日発行

新潟県民間環境
検査機関協議会
(略称「民環協」)



新潟スタジアム・ビックスワン

2002年 FIFAワールドカップが開催された新潟スタジアム・ビックスワンは新潟市の中心にある鳥屋野潟の脇に位置しています。ビックスワンの愛称は、スタジアムの白い巨大な屋根と鳥屋野潟に飛来する白鳥をかけて付けられたものです。

写真・文 猪 俣 勝 一
(財)新潟県環境分析センター
撮影時期 平成13年1月

平成¹⁴13年度 新潟県民間環境検査機関協議会（民環協）事業報告

- 通常総会 平成14年6月17日
平成13年度事業報告
平成13年度収支決算報告
平成14年度事業計画
平成14年度収支予算
役員を選任
- 理事会 平成14年6月17日
○ 新潟県理化学技術職員協議会主催の講演会への参加
平成14年7月27日
○ 甲信越環境測定機関協議会への参加
平成14年11月18日
○ エコビジネス展への参加
平成14年9月27日、28日
- 常任理事会 平成14年6月17日
平成14年8月29日

会員が行っている主な業務

- 健康で安心できる生活のために
 - ・ 飲料水、簡易専用水道の検査
 - ・ 食品の成分分析や添加物検査
 - ・ 病原性細菌検査などの衛生検査
- 快適な生活環境を守るために
 - ・ 環境水、工場排水などの水質分析
 - ・ 浄化槽の法定検査、放流水検査
 - ・ 焼却場、ボイラー等の排ガス測定
 - ・ 土壌中の有害金属等の分析
 - ・ 作業環境測定
 - ・ 焼却場、工場などの悪臭物質の測定
 - ・ 工場や生活環境中の騒音、振動測定
- 新たな環境問題に即応するために
 - ・ 排ガスや環境中のダイオキシン類測定
 - ・ 環境水等の環境ホルモン測定
 - ・ 遺伝子組み換え食品分析
- 自然環境を守るために
 - ・ 大規模開発に伴う環境アセスメント
 - ・ 各種環境調査、解析
 - 水質、底質、土壌等の調査
 - 動物、植物等の生態系調査
 - 騒音、振動、交通量調査
 - 環境大気等の調査
 - 日照、景観等の調査
 - 酸性雨・雪等の調査
 - 廃棄物関連の調査
- 環境保全型社会づくりの支援
 - ・ ISO14000s認証取得の支援とコンサルティング
 - ・ 環境保全、復元、創造のためのコンサルティング

精度管理部会活動報告

精度管理部会長 小林 広志

精度管理部会は我々検査機関が重要視しなければならない分析精度の向上を目指す部会です。今年度の部会活動は平成14年5月10日の定例全体会議において審議後開始いたしました。

1. 内部精度管理実践活動（平成14年8月～12月）

各検査機関で日常行っている分析項目の精度を確保するため、 $\bar{X}-R$ 管理図法による所内精度管理を実施しています。

2. 外部精度管理に実施（平成14年10月試料配布）

全会員が参加できるように水質試料を調製してナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム、アンモニウムイオン、全クロム、六価クロムの分析を実施しています。

3. 精度管理の結果検討会

内部精度管理、外部精度管理の結果を取りまとめ、解析後計量証明部会と合同で検討会を平成15年2月頃開催する予定です。今回は(株)日本環境測定分析協会から講師を派遣していただき技能試験結果の解説、説明会を実施する予定です。

4. 外部精度管理結果

平成12, 13年度に行った肥料分析標準試料の外部精度管理については10会員から報告を受けましたのでここに報告いたします。

平均値及び精度（平成12年度）

項目	報告 (n)	平均値 (mg/kg)	標準偏差 (s)	C V (%)	最小値 (mg/kg)	最大値 (mg/kg)	範囲	標準値 (mg/kg)
カドミウム	9	1.390	0.276	19.9	0.914	1.72	0.806	1.6±0.1
鉛	8	1.021	0.519	50.8	0.0723	1.74	1.667	1.5±0.3
ヒ素	10	1.413	0.208	14.7	1.12	1.71	0.59	1.6±0.2

平均値及び精度（平成13年度）

項目	報告 (n)	平均値 (mg/kg)	標準偏差 (s)	C V (%)	最小値 (mg/kg)	最大値 (mg/kg)	範囲	標準値 (mg/kg)
亜鉛	10	109.4	18.58	17.0	70.6	141	70.4	115±3.2
カドミウム	10	2.654	0.441	16.6	2.14	3.63	1.49	2.8±0.1
鉛	10	1.696	0.505	29.8	0.93	2.50	1.57	2.2±0.4
水銀	10	0.0261	0.00428	16.4	0.0173	0.0329	0.0156	0.03±0.005

計量証明部会活動報告

計量証明部会長 横田清士

計量証明部会は、民環協の組織改革が行われた平成7年度に、環境計量証明事業に係る分析・測定技術の向上を目的に発足した部会で、丸8年目の活動に入り以下の通りの計画で今年度活動中です。

1. 第1回技術研修会（計量法改正後の各機関の対応状況）

平成14年9月27日～28日に国民年金健康センター上越で9機関17名の参加により研修会を開催しました。内容は、昨年度実施した計量証明書の記載内容で新たに計量法が改正され、今年度に計量証明書を改定又は改定に向け検討中の内容を紹介いただきました。併せて計量管理上必要な情報として、使用している記録、様式類を提示いただき、今後の各機関の参考としていただきました。

2. 第2回技術研修会（技能試験における評価方法）

平成15年2月頃、ISO/IECガイド43-1に基づく環境分野の技能試験の評価方法ならびにその解説を日本環境測定分析協会の担当者よりご講演いただく予定です。

3. 先進県（検査機関）視察研修会

平成14年11月8日～9日に財団法人東海技術センター（TTC）へ視察研修を行いました。TTCは、ISOの審査登録機関でもあり、設立からの歩みならびに現在の業務内容に至るまで親切丁寧にご紹介いただきました。また現在取り組まれている分析自動化に関する講演の後、分析ラボの見学もさせていただきました。終了後の懇親会には、TTCの関係者からもご出席いただき計量証明事業全般にわたり懇談ができ、大変有意義な研修でした。

4. 日環協関東支部環境セミナー

平成14年10月8日～9日に長野県軽井沢町において、第14回環境セミナーin軽井沢が開催されました。第1日目の特別講演では、環境省環境管理局水環境部土壌環境課 由田課長より「土壌汚染対策法について」と㈱八十二銀行 茅野会長より「循環型社会をめざして—文明の破局を避ける大改革—」の演題でご講演をいただきました。第2日目には県内の検査機関からも2題の発表があり演題は(財)新潟県環境分析センター小柴真樹さんが「固相吸着—溶媒抽出—GC/MS法による室内空気汚染物質の測定～吸着剤の選定について～」、(財)新潟県保険衛生センター本間充さんが「食品排水のBODとTOC」でした。

5. 日環協関東支部役員会

以下の役員会に部会長機関として(財)上越環境科学センターが出席しました。

- (1) 平成14年5月28日（東京） 関東支部役員会へ出席
- (2) 平成14年8月22日～23日（神奈川） 環境セミナーin軽井沢の打ち合わせ会議出席
- (3) 平成15年2月下旬頃予定（茨城） 関東支部役員会へ出席予定

水道・食品部会活動報告

水道・食品部会長 松浦 光 芳

水道・食品部会は、水道、食品及び貯水槽の水質に係る検査技術の研究、研修等を行う部会で、三つの委員会を設け、各委員会ごとに検査技術に関する情報交換や広報活動を行っています。本年度の部会事業活動は、平成14年5月10日に開催された部会全体会議において審議され、その事業計画に沿って、活動を行っています。以下に、本年度の事業活動の内容について報告します。

1. 会 議

- ・平成14年5月30日 全国給水衛生検査協会関東甲信越支部理事会
「りんどう湖ロイヤルホテル」栃木県那須町
部会長出席
- ・平成14年9月19日 新潟県受水槽以下の給水施設の構造基準及び維持管理指導要綱の見直し検討会
県生活衛生課主催の会議が県庁中会議室で行われ、民環協会の5機関が出席した。
- ・平成15年2月～3月（新潟市内において開催する予定）
簡易専用水道指定検査機関打ち合わせ会議
例年どおり、県・新潟市の担当者からも出席して頂く予定。

2. 研 修 会

① 水道委員会・ビル管委員会

- ・技術研修会（講演会）

平成14年11月13日 新潟県厚生年金会館において開催。

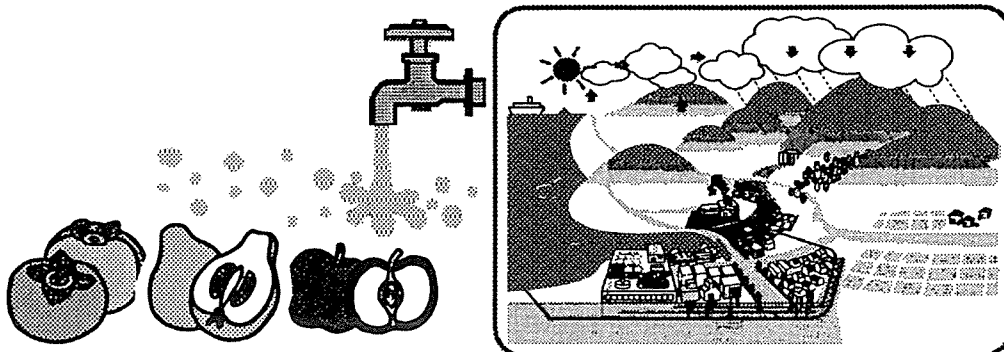
県生活衛生課から講師（水道担当）を派遣して頂き、「新潟県貯水槽給水施設の衛生管理指導要綱について」及び「水道法改正と貯水槽水道に係る供給規程改正について」の講演会を行った。

② 食品委員会

- ・食品研修会（平成15年1月下旬～2月上旬に開催する予定）

テーマ「保健所における食品のGLP検査（理化学・細菌）について」

講師 三条保健所職員



浄化槽部会活動報告

浄化槽部会長 外山 憲 幸

会 議

開催日	開催場所	会議名	概要
平成14年4月15日	(社)新潟県環境衛生中央研究所	浄検協 全体会議	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県浄化槽総合管理協議会(案)の設立について 平成14年度事業計画(案)
平成14年4月24日	(財)日本環境衛生センター	浄化槽指定検査機関関東甲信越ブロック協議会理事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年度事業報告及び収支決算報告 平成14年度事業計画(案)収支予算 職員表彰
平成14年5月10日	メルパルク新潟	民環協 合同部会	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年度事業報告及び収支決算報告 平成14年度事業計画(案)収支予算
平成14年6月21日	メルパルク新潟	浄検協 通常総会	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年度事業報告及び収支決算報告 平成14年度事業計画(案)収支予算
平成14年7月19日	(社)新潟県環境衛生中央研究所	浄検協 全体会議	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県浄化槽総合管理協議会設立総会について
平成14年9月11日	(財)新潟県環境衛生研究所	浄検協 技術部会	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県浄化槽法定検査判定ガイドライン改正(案)の内容について 改正に伴う検討意見交換

研 修 会

開催日	開催場所	会議名	概要
平成14年 11月14・15日	(財)日本環境整備教育センター	浄化槽指定検査機関関東甲信越ブロック協議会検査員研修会及び理事会	<ul style="list-style-type: none"> 浄化槽法定検査ガイドラインについて

今後の予定

平成15年2月下旬	技術部会研修と浄検協合同の県外視察
-----------	-------------------

そ の 他

平成14年5月17日	新潟県環境整備事業協同組合 浄検協会長出席
平成14年5月21日	(社)新潟県浄化槽整備協会 浄検協会長出席
平成14年7月30日	新潟県浄化槽総合管理協議会設立協会 浄検協会長・7機関代表出席

東北緑化環境保全株式会社 東新潟支社

〒957-0101 新潟県北蒲原郡聖籠町東港1丁目1-155
TEL 025-256-2506 FAX 025-256-3134

東北緑化環境保全株式会社は、昭和47年4月に設立され、以後、東北地区を拠点に3事業部（測定分析、環境、造園土木）、9支社（六ヶ所、八戸、秋田、宮城、女川、酒田、会津、原町、東新潟）の他に地方事務所及び営業所の体制で業務を行っております。

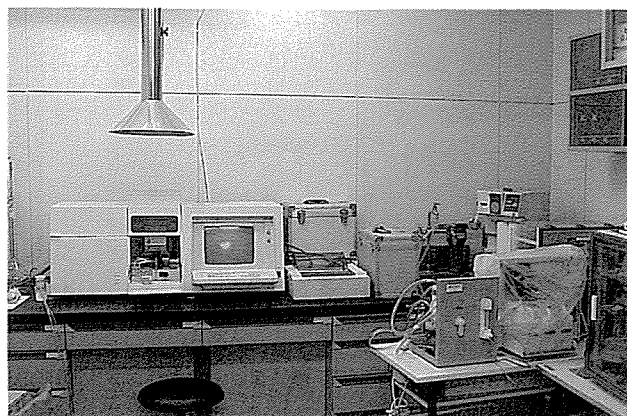
営業内容としては、公害関係測定分析、有害物質調査、放射線管理、工業薬品他商品販売等。大気、水域、陸域、社会の各環境調査等。環境マネジメント、地球環境、廃棄物リサイクルの各コンサルタント業務等。緑地関連建設関係の設計、施工、計画、コンサルタント、工事、販売、リースと幅広く行っております。

東新潟支社は、当初、昭和47年4月に新潟共同火力出張所として火力構内に設立され、以後、昭和63年5月に支社、平成3年に計量証明事業所登録を行い、主に東北電力株式会社の火力発電所等の公害関係測定分析及び緑地関連の設計、施工、計画について業務を行っております。

現在は、総勢25名（上越営業所、佐渡分室含む）の人員です。

発電所構内に所在しており、水質、大気、計器メンテ、造園関係の業務を速やかに行いお客様のニーズにこたえている反面、一般及び官公庁関係には、いまだ名前を知ってもらう程度です。

数年前より測定分析事業部に一部分析業務を集中化させており、事業部（多賀城）では現在、ダイオキシン分析関連設備を新設中であり、今後は、問題解決型の業務（土壌汚染、ダイオキシン、有害物質調査等）を行い、地域社会に貢献できる会社として、「お客様の悩みを解決し正確で効率の良い仕事をする」会社を目指してまいります。



財団法人 日本気象協会 新潟支店

〒950-0962 新潟市出来島1丁目11番26号
TEL 025-281-5711 FAX 025-282-3272



財団法人日本気象協会は、昭和25年に公益法人として設立され、気象情報の提供や技術コンサルティングを通じて、安全で快適な生活や環境保全、そして産業活動の推進に努めてまいりました。その組織は、本社と首都圏支社（新潟支店所属）など6支社及び支社に連なる数十の支店・営業所と、全国的な規模で事業所を展開しています。主なる事業内容は、気象情報提供、気象や防災知識の普及、調査・コンサルティング、技術開発であります。特に、首都圏支社では、本年6月から環境省が関東地方の都県を対象として、「大気汚染物質広域監視システム（愛称そらまめ君）」を公開していますが、これは当支店のリアルタイムデータを収集し、インターネット上に公開しているものです。

一方、新潟支店での事業内容は、1. 気象情報提供（気象情報部門） 2. 気象、水象等調査・解析（調査部門） 3. 大気等環境調査（環境部門）の3部門から成っています。

環境部門は、昭和49年に大気、水質等も行う新潟公害試験所として出発しましたが、その後の事業減、水部門の撤退などの時代的変遷を経て、今日の大気中心の業務に至っております。その主なる事業内容は、APメータの保守管理、それに伴う大気汚染物質調査、地盤沈下観測井の観測などです。また、上記そらまめ君の公開を機会に、当支店でも、APメータのテレメータ化による環境監視システムを自治体に納入し、その管理、メンテナンスも行っております。調査部門では、気象その他事象の観測・測定などアセスメントに連なる調査も行っております。また、冬季には、降雪や積雪に伴う雪粒子の吹きだまり状況を、独自の数値シミュレーションを用いて計算し、その結果を基に防雪対策に資しております。以上、当支店といたしましては、これからも地域の住みよい環境づくりのために、品質・信頼性の高い各種情報を提供してまいりたいと考えます。

挨拶

京都食品環境分析センター 環境検査室 野島 邦一

ごく当たり前のことなのだが、入社時は「おはようございます」、また退社時は「お先に失礼します、お疲れ様でした」と挨拶をする。

小学校の時は『朝の会』や『終わりの会』、中学校の時はホームルームなどがあるので、先生や友人にはその時に挨拶をすることができた。しかし、高校の時は朝のホームルームはあるのだが、夕方はホームルームがなく、6限の授業が終わると、部活に行く人、図書館などで勉強する人、帰る人など各々行動がバラバラなので、

「あれ？〇〇は？」

「たぶん帰ったんじゃないの？」

「えっ？帰ったの？CD返そうと思ったのに」

と、挨拶がないので帰ったかどうかかわからず、こういうことがよくあった。

また、大学の時は、ホームルームなどは一切なく、大学で友人に会った。

「よう！」

「おう！」

と、いったような挨拶しかしない。

しかし、ポケットベルや携帯電話を持っている人が多かったことと、大学の近くに住んでいる人が多かったことで、連絡が容易に出来た。

「〇〇はどこ行ったんやろ？」

となったら、携帯電話を掛ける。

「今どこ？」

「家。」

「大学は？」

「今日はもう終わったから、帰って来た」

「これからこの前借りたノート返しに行こうか？」

「おう！おいでや！」

「ほな行くわ！」

と、急用が出来ても連絡が取れた。

少し話しかけるが、以前、朝食を食べようと、友人と24時間営業の牛丼屋に行こうとしていた時、スポーツウェアを着た外国人の女性が声を掛けて来た。

「Excuse me」

どうやら朝のジョギングをしていたら迷子になり、滞在先のホテルがわからなくなったらしい。

その後、なんとか彼女を滞在先のホテルに案内したら、

「Thank you very much」

と、手を合わせてお礼を言われた。私と友人は、

「少し違うよな～」

と、顔を見合わせた。

外国の映画で『日本の習慣』らしきものが表現されているときも、同じ様な違和感を感じることもある。

もし私が習慣を知らない国を旅行していて、以下のような挨拶をされたら恐らく多少なりとも戸惑うだろう。

西 欧 : 頬にキス (友好的な挨拶)

ヨーロッパ : 指先にキス (挨拶)

西欧 (ラテン系) : 手にキス (尊敬を込めた挨拶)

同じ『指先にキス』でも、

「I Love You」

を意味する国もある。

「ヨーロッパでは挨拶で指先にキスをするものなのか・・・」

と思い、挨拶のつもりで指先にキスをしたら、大変なことになるかもしれない。

仏教の国・東アジア全般 : 手を合わせる・合掌

ジョギングの女性は『仏教の国』だから『手を合わせる』と思い、実行したのかもしれない。彼女のそのお礼に違和感を感じたが、少しも嫌な感じはなく、どちらかという嬉しい気持ちになった。

毎日出社時や退社時に挨拶をするのだが、挨拶を返してもらえないときがある。聞こえなかったのか、気づいてもらえなかったのか、返してもらえないと少し空しくなる。しかし私自身も他の人の挨拶に気づかず、返さないことがあるのだろう。そのときは挨拶をしてくれた人を空しい気持ちにさせているのかもしれない。挨拶はごく当たり前のことで、ごく簡単なことなのだ、一日を気持ちよく過ごせたり、過ごせなかったり、挨拶ひとつでそれが左右されることがあるので、挨拶はとても重要なことであると、社会人になってから認識を新たにした。

水と断水と私

(脚) 上越環境科学センター 近藤 晶代

「大切なものの価値は、そのものを失って初めてわかる」とはよく聞く言葉だが、皆さんはそれを実感したことがあるだろうか。私は「水」でそれを感じた。

以前近所で水道工事があり、我が家も断水したことがある。平日の夕方、私が帰宅して1時間もすればまた水が出るようになっていたのだが、その1時間が実に長く感じられた。

まず、外から帰ってきたのに手が洗えない。うがいも出来ない。何とも気持ちが悪い。お茶を飲んで一息入れることも当然出来ない。皮膚に油気と塩気を感じる。そのとき、ねとつく両手をもてあましながら思った。

「ああ今、コップ一杯でも水があればなあ」

自分がこんな、昔話に出てくる貧しい旅人のようなセリフを言うとは思わなかった。しかも実感をこめて。

以来、私は自分の周囲にある水を大事にするようになった。むだに水を流しちゃったりすると、必ず心が痛む。

「今、流れていった水でいくらでも手が洗えたのに～」

さらに、湖沼を見ても河川を見ても「この水はいざというとき飲めるだろうか」と考えたりする。飲むことが出来れば手も洗えるし、生活全般に使用可能だろう。

一番身近なのは近所を流れる川だが、つねに水が茶色いので飲んだら即、病気になりそうだ。空から降ってくる雨も、大気の中の様々な物質が含まれているので、そのままでは飲む気がしない。

こうしてみると、水など周囲に無尽蔵にあるようできて、安心して使うことの出来るのはごく一部、それも数多くの過程を経て浄化したものだけだ。浄水施設がなくなったらどうしようか。上流まで水を採りに行かねばならない。

考えると、ちょっと不安になる。そして前述の断水の時、私は弱い恐怖を感じた。それは単純に「水がない」という事実のほかに、口では「水って大事」と言いながら、実は「たかが水」と考えていた自分に気付いたからでもある。水道ひねればいくらでも出てくるし。

人間という動物に必要なものほど、一番に整備され、維持される。(水、食べ物など) そのため、重要なものほど当たり前前に周囲にありすぎ、いつもはその大切さに気付かない。それらの大切さに気付く謙虚さを忘れないようにしたい。

現在のわれわれの暮らしは機械化が進み、とても便利になったが、それだけ自然そのものとは隔てられている。昨今、自然環境に関心が集まっているのも、現代人が「生命の源」と隔てられていることに無意識の不安を抱いているからではないだろうか。

信じる？ 信じない？

(わが家の言い伝え)

東北緑化環境保全(株) 東新潟支社 佐藤 智行

「要害山にあるお城が焼き討ちされたとき、城主が七葉の松の根元に、財宝を埋めて逃げたそうだ。戦前枯れ葉を見つけたやつはいるが、なんぼ探しても七葉の松は見つからない。見つけたらいい暮らしができるのに……」

うちのすぐ近くに、日本で一番小さい山脈である楡形山脈がある。この山脈の南端に、戦国時代に上杉の出城があったといわれる要害山がある。戦国時代には、前に紫雲寺潟とそれに注ぎ込む加治川、後ろに飯豊山を控え、難攻不落の土地であったと思われる。

個人的な考えであるが、当時佐渡からの銀と砂金はこの紫雲寺潟から荷揚げし、加治川上流の赤谷鉱山から取れる鉄とともに、軍事物資として集積していたのではないかと思っている。

この城は戦国中期に、最上と上杉の争いの中で、最上勢から火攻めにあって焼け落ちたそうである。今でもここに登って、山頂より少し下あたりの地表を掘ると、黒く焦げた米が出てくる（昔の米倉跡らしい）ということは、話の信憑性はとても高い。

ということで、この話は我が家の大年寄りからの言い伝えである。（この話はわが地域のどこの年寄りも知っているらしい）地名としては残っていないが、七葉小学校、七葉中学校のように、みんなの記憶として残っているようである。

しかし、普通の松が二葉の松であるから、七葉の松は大変珍しい。探せばわかりそうなものなのに、未だに見つけた人はいないというのはなぜであろう。枯れ葉があったと言う場所も、しらみ潰しに探したそうだが、とうとう見つからなかったそうである。戦後の環境破壊で枯れてしまったのか、はたまたこの話自体がデマなのか。

いろいろな状況から考えると、この財宝は佐渡からの倭詰めの砂金か銀である確率が高い。それも持っていけないくらいであるから、結構な量であろう。と言うことは探して見つけることができれば……。

桜の時期には山桜が咲いて、大変きれいな大峰山からすぐ近くであり、また要害山周辺だけでもハイキングとして絶好の場所である。ちょっと運動不足の解消に散策してみるついでに、松の木葉と落ち葉を見ながら歩けば、もしかしてあなたも……？

さてこの話、信じる？信じない？

自動車と機器分析の

ビミョウな関係

(株)新潟県環境衛生中央研究所 佐藤博之

かつては贅沢品のような存在であったが、いまや生活必需品といっても過言ではない存在となった自動車のことを私はたまに好きである。エンジンのついた自動車がこの世に現れてから、たった100年程の歴史であるにも関わらず、今や高性能が進み高出力エンジンを搭載したスポーツカーや、アンチロックブレーキシステム（ABS）をはじめとする高性能な電子デバイスを装着した車を町の至るところで見ることができる。高出力エンジンはゆとりのある加速をもたらし、高性能な電子デバイスで制御された駆動系は乗り手に安心感を与え、われわれも少なからずその恩恵を受けているのも事実であろう。私は、雑誌等に新型車のレポートが掲載される度に、技術の進歩する圧倒的な速さに驚かされる。しかしその反面、車の中身は複雑化し、年々ブラックボックス化が進んでいるように思えてならない。

そんなブラックボックス化が進んでいては、なかなか自分でメンテナンスをしようという気にはなれないものがある。が、車を所有している方なら一度くらいはこんな経験があるのではないだろうか。車が汚れたので、洗車し、ワックスがけもしてピカピカの状態になったところで運転してみると、いつもより調子良く車が走っている気がする。実は、誰にでもできるこれがメンテナンスの第一歩なのではないだろうかと私は考える。

さらに一歩踏み込んでエンジンについて考えてみる。知っての通り、エンジンは空気を吸込みそこに燃料を噴射し圧縮・爆発を繰り返す。当然空気を大量に吸い、増加した空気量に見合うだけの燃料を噴射すれば爆発のエネルギーは大きくなり、エンジン出力は向上する。またエンジン出力は排気量にも比例する。これが大原則となる。この事を踏まえて、自分の車のエンジンルーム内を覗いて見ると今までとは違った見方ができる。一例を挙げると、エンジンの近くには黒い樹脂製の箱（エアクリーナーボックスという）があり、簡単に外せるフックで固定してあるそのふたを外すと、その中には大抵の場合、四角いフィルター（ろ紙）が入っている。これは、空気中の異物がエンジン内に混入しないために絶対必要なもので、意外と汚れやすいものである。そこが汚れているという事は、フィルターを通過する空気量が減少し、エンジンの出力低下につながることは上で述べた大原則から容易に想像できる。軽い汚れなら掃除機で吸引するなどし、ひどい場合には新品に交換すれば、本来の性能を発揮できるはずである。基本を押さえればなにも難しいことではない。

基本という字は基（もと）の本（もと）と書く事から、最も重要な事であり、ブラックボックス化がいくら進もうともその基本は皆同じである。したがって、基本をしっかり理解すれば自ずとメンテナンスもどこをどの様にすればよいのか見えてくるものであろう。私は大の車好きなので車に例えてきたが、この事は分析機器でも同じであると思う。分析機器も年々進歩し、自動化、ブラックボックス化が進んでいる事が事実である。当然の事ではあるが、機器分析に携わる以上その基本を理解し、自分でできる範囲内で必要なメンテナンスを施す事が重要であり、それが測定値の信頼性、ひいてはお客様との信頼関係にもつながることを決して忘れてはならないと私は思う。

新潟県民間環境検査機関協議会会員名簿

●正会員

(アイウエオ順)

会 員 名	住 所	電 話 番 号
(社) 県 央 研 究 所	〒955-0805 三条市吉田 1411 の甲	0256-34-7072
県 都 食 品 環 境 分 析 セ ン タ ー	〒950-0022 新潟市幸栄 1 丁目 7 番 12 号	025-270-8890
コープエン지니어リング(株)新潟分析センター	〒950-0881 新潟市榎町 3 番地	025-273-8176
(株) 上 越 環 境 科 学 セ ン タ ー	〒942-0063 上越市下門前 1666 番地	025-543-7664
東北緑化環境保全(株)東新潟支社	〒957-0101 北蒲原郡聖籠町東港 1 丁目 1 - 155	025-256-2506
(株) 新 潟 県 環 境 衛 生 研 究 所	〒959-0291 西蒲原郡吉田町東栄町 8 番 13 号	0256-93-4509
(社) 新 潟 県 環 境 衛 生 中 央 研 究 所	〒940-2127 長岡市新産 2 丁目 12 番地 7	0258-46-7151
(株) 新 潟 県 環 境 分 析 セ ン タ ー	〒950-1144 新潟市祖父興野 53 番地 1	025-284-6500
(株) 新 潟 県 保 健 衛 生 セ ン タ ー	〒951-8131 新潟市白山浦 2 丁目 180 番地 5	025-267-8191
(株) 二市北蒲原郡総合健康開発センター	〒957-0054 新発田市本町 4 丁目 16 番 83 号	0254-23-8352
(株) 日 本 気 象 協 会 新 潟 支 店	〒950-0962 新潟市出来島 1 丁目 11 - 26	025-281-5711
ミヤマ(株)燕工場分析センター	〒959-1276 燕市大字小池 3663 番地 1	0256-63-6751

●賛助会員

(アイウエオ順)

会 員 名	住 所	電 話 番 号
池田理化工業(株)新潟支店	〒950-0992 新潟市上所上 3 丁目 5 - 10	025-285-9277
鐘通化学薬品(株)	〒951-8141 新潟市関新 1 丁目 7 - 22	025-231-7121
島津サイエンス(株)新潟支店	〒950-0926 新潟市高志 1 丁目 3 - 14 アクシス 1 - 102	025-286-7191
(株) タ ケ シ ョ ー	〒950-0965 新潟市新光町 23	025-283-6231
寺井科学器械(株)	〒941-8116 新潟市東中通 1 番町 186 - 1	025-229-1198
(株) 新 潟 コ ン ゴ ー	〒950-0831 新潟市下場 25 - 1	025-279-2031
(株) バ イ タ ル ネ ッ ト	〒950-2023 新潟市小新字大通 3799 番地 1	025-234-1111
北 陸 工 機 (株)	〒942-0001 上越市中央 3 丁目 14 - 34	025-543-2434
和光純薬工業(株)北関東営業所	〒330-0802 埼玉県さいたま市宮町 4 丁目 150 - 1 金源ビル	048-641-1271

編集ノート

いつもこの時期になると、一年の早さに改めて驚きます。今年も昨年以上にいろいろな出来事がありました。今年の民環協だよりの表紙を飾っているピクスイワンに歓声がわき起こり、ワールドカップの興奮に包まれてから早5ヶ月が経過しましたが、つい先日のように思い出されます。また、9月に急展開した北朝鮮の拉致事件については、本県から被害者が出たこともあり、残された家族が一日も早く帰国出来ることを願わずにはられません。

暗いニュースが多い中、ノーベル賞のダブル受賞は日本国民に元氣と自信を与えてくれました。特に田中さんの受賞は環境分析に携わる私どもにもなじみのある質量分析法であり、癒し系のキャラクターと共にノーベル賞を身近に感じました。

しかし、私たち検査機関を取り巻く環境は相変わらず大変厳しい状況が続いています。一向に回復しない日本経済はデフレスパイラルに歯止めがきかず、更に今盛んに議論されている市町村合併も検査機関サイドからみれば市場の縮小にもつながりかねず、不安材料として懸念されます。そんな中、今年は未登録農業問題

が発生し、検査機関が農業分析結果をいかに早く報告出来るかが問われました。これからも世の中が検査機関に求める様々なニーズを的確に掴み、いかに素早い対応ができるかがポイントになるのではないのでしょうか。

益々スピードアップする情報化社会では最近言われるところの1年は7年分の情報密度を持つドッグイヤー(犬の一生は人間より7倍回転が速いところからの命名)になっていると強く感じます。世の中のスピードに遅れることなく、顧客のニーズに柔軟に対応できる検査機関への改革が不可欠であり、益々重要な要件になると思われます。

年末の忙しい中、原稿をお寄せ頂きました皆様には大変ありがとうございました。

編集委員 精度管理部会 小林
計量証明部会 横田
水道・食品部会 松浦
浄化槽部会 外山
事務局 三輪